

[表14] クラスタ（5群）別の上位20処方

順位	クラスター1 (36)※1	件数	順位	クラスター2 (31)	件数	順位	クラスター3 (13)	件数	順位	クラスター4 (42)	件数	順位	クラスター5 (12)	件数
1	柴胡桂枝湯	31	1	その他	29	1	葛根湯	13	1	桂枝茯苓丸	34	1	十全大補湯	11
2	その他	27	2	補中益気湯	21	2	小青竜湯	12	2	八味地黄丸	34	2	温清飲	11
3	柴胡加竜骨牡蛎湯	26	3	六君子湯	15	3	五苓散	11	3	加味逍遙散	31	3	補中益気湯	10
4	五苓散	23	4	逍遙散(八味逍遙散)	15	4	桂枝茯苓丸	10	4	半夏厚朴湯	31	4	加味逍遙散	10
5	桂枝茯苓丸	22	5	加味逍遙散	14	5	柴胡桂枝湯	10	5	当帰芍薬散	30	5	桂枝茯苓丸	9
6	補中益気湯	19	6	桂枝茯苓丸	13	6	黄連解毒湯	9	6	葛根湯	24	6	荊芥連翹湯	9
7	半夏厚朴湯	19	7	八味地黄丸	13	7	当帰芍薬散	8	7	その他	24	7	当帰芍薬散	8
8	八味地黄丸	18	8	疎経活血湯	13	8	その他	8	8	補中益気湯	23	8	温経湯	8
9	当帰芍薬散	18	9	葛根湯	12	9	八味地黄丸	7	9	柴胡桂枝湯	21	9	六味地黄丸	8
10	小柴胡湯	18	10	麦門冬湯	12	10	半夏厚朴湯	7	10	十全大補湯	20	10	その他	7
11	葛根湯	16	11	当帰芍薬散	11	11	麦門冬湯	7	11	六君子湯	19	11	六君子湯	5
12	小青竜湯	16	12	小青竜湯	11	12	小柴胡湯	7	12	柴胡加竜骨牡蛎湯	19	12	半夏瀉心湯	5
13	加味逍遙散	15	13	苓桂朮甘湯	11	13	芍薬甘草湯	7	13	疎経活血湯	19	13	芎藭調血飲第一加減	5
14	半夏瀉心湯	15	14	半夏白朮天麻湯	10	14	半夏瀉心湯	6	14	半夏瀉心湯	18	14	八味地黄丸	4
15	柴胡桂枝乾姜湯	15	15	抑肝散加陳皮半夏	9	15	猪苓湯	6	15	柴胡桂枝乾姜湯	17	15	黄連解毒湯	4
16	温経湯	14	16	防己黄耆湯	9	16	安中散	6	16	小青竜湯	16	16	麦門冬湯	4
17	六君子湯	13	17	牛車腎気丸	9	17	補中益気湯	5	17	黄連解毒湯	14	17	抑肝散加陳皮半夏	4
18	黄連解毒湯	13	18	四物湯	9	18	加味逍遙散	5	18	麦門冬湯	14	18	防風通聖散	4
19	苓桂朮甘湯	13	19	杞菊地黄丸	9	19	防風通聖散	5	19	苓桂朮甘湯	14	19	竜胆瀉肝湯	4
20	温清飲	12	20	半夏厚朴湯	8	20	葛根湯加川芎辛夷	5	20	抑肝散加陳皮半夏	13	20	防己黄耆湯	4

日本漢方連盟加盟薬局に調査。調査期間：2012.12.27～2013.1.27（クラスター分析：有効回答134）

※1（ ）内の数値は各クラスターの薬局数を示す。

■ 婦人科系統の処方 ■ 葛根湯 ■ 胃腸系統の処方 ⊕⊕⊕ 柴胡剤 ▨ 補剤

＜参考＞ 漢方薬局の処方運用の多様性の参考として、今回調査した漢方薬局で用いている常用処方によってクラスター分析を行い、それぞれのクラスターについて常用処方を整理したものが[表14]である。サンプル数が134とあまり多くないため参考程度ではあるが、5群のクラスターの中で、処方によっては用いられる薬局にはっきりとした差異の出るものが存在した。なお、全体の3%以下の薬局でしか用いられていない処方は、『その他』としてまとめている。

これをみると、以下のような特徴がみられた。

- クラスタ間で差があまりないものは桂枝茯苓丸・当帰芍薬散・加味逍遙散などの婦人科系統の処方(■)、八味地黄丸・補中益気湯・十全大補湯などの補剤(▨)、六君子湯・半夏瀉心湯(■)などの胃腸系統の処方である。
- 柴胡剤(⊕⊕⊕)は、薬局によって用いる薬局と用いない薬局に分かれている。1・3・4のクラスターでは比較的多く用いられ、特に1のクラスターではかなり頻用されているが、5ではあまり用いられず、2では50位以降でしかみられない。
- 風邪薬として著名な葛根湯や小青竜湯(■)は、1～4のクラスターではよく用いられているが、5のクラスターではほとんど用いられていない。逆に5のクラスターで多く用いられているのは婦人科系統の処方や補剤である。
- クラスタごとでは以下のような特徴がみられた。
 クラスタ1：柴胡桂枝湯を筆頭に柴胡剤が多く用いられている。
 クラスタ2：柴胡剤をほとんど使っていない。また、このクラスターでは、その他の処方を用いる割合が高く、さらに20位以下の処方をみると、中成薬を用いる割合が高くなっている。
 クラスタ3：葛根湯、小青竜湯、柴胡桂枝湯など風邪薬の系統を多く用いており、逆に補剤の使用は低くなっている。
 クラスタ4：薬局全体の処方ランキングに比較的近い傾向を示すグループである。
 クラスタ5：通常多く用いられる葛根湯・小青竜湯・柴胡桂枝湯などが用いられず、代わりに婦人科系統の処方や補剤が中心で、10位までのうち8処方がその系統の処方である。